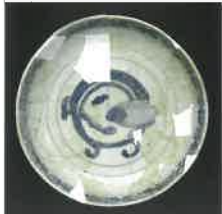
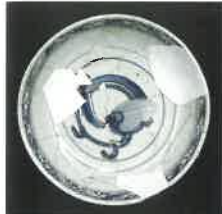




団螭龍図皿



草鳥図皿



鳥鹿蜂猿図皿



鳥鹿蜂猿図皿

検出個体数は五二個体で口径一三・二〜一三・四cm、器高二・八〜三・一cmのもので、本類の意匠は重圏線内に鳥、鹿、蜂（蜂の巢）、猿が描かれるもので、「爵禄封侯図」という名称があります。これは「立身出世」の願いを表す吉祥文様で、爵を鶴、禄を鹿、封を蜂、侯を猿で表現しており、中国語の発音上同音のものを、吉祥を表すものとして同一視しています。単純に同音として当てはめているものは蜂（fang）⇨封であり、猿はサル（hou）⇨侯（hou）と同音になるのは「猴」です。蜂と猿を描いて



草鳥図皿

検出個体数は五〇個体で口径一三・四〜一三・六cm器高二・七〜二・八cmのもので、やや厚手で施釉も厚く、ピンホールが多く認められ、表面がざらつくものも多く見られます。本類は口縁部内面および外面には文様が描かれないものです。本類の意匠は見込み部から体部下方にかけて描かれており、便宜的に「草鳥図」と呼称しておきますが、図柄の正式な名称は不明です。中央の寿石から細長い草と左右に枝葉がのび、向かって左側に鳥、右側に花蕾が描かれるものです。

団螭龍図皿

七七四〇点の破片が出土し、ほとんどの破片が接合した結果、二七一個体を確認しました。意匠別では先に述べた「菊牡丹図皿」に次いで多くなっています。口径一三〜一三・四cm、器高二・七〜三cmのもが中心となります。本類の意匠は圏線ないし重圏線内に龍が描かれるものです。中国では龍は最高位の神獣であり、四霊（龍、鳳、麟、亀）の長にして最高の吉祥とされています。本意匠は尾が二股に分かれる角のない龍のことで、一般的に見られるような体部に鱗を持つ角のある龍とは異なるものです。中国ではこれを「螭」と呼称して、いわゆる五爪の龍などとは区別しています。また、意匠全体が円形にまとまるものを「団」と言い、団龍・団鶴・団菊などの意匠がありますが、この「団龍」とは異なり、龍自体が円くなるもので、「団図（紋）」という名称が与えられています。他の遺跡出土例などでは単に龍（団龍文、蛟龍文）と呼称されていますが、ここでは鱗や角を持つ龍とは区別して螭龍（団螭龍図）と呼称しておきます。龍の描き方には差異が認められ、特に人面を模したような顔面は個人的にも思える特徴を有しています。また、頸部・体部の描き方もそれぞれ異なり、足部は指と爪が一体化して表現されています。特に顔面と目は比較的丁寧に描いていると思われるものから省略されていくものと多様です。